

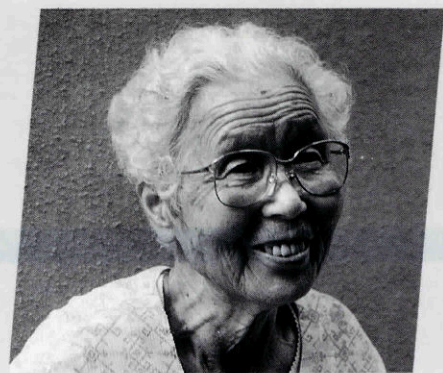
末永真一 くん

3年(上川西1区)

「差別という厚い壁を僕たちの手で破らなければ……」という思いが、僕の胸にわき起こってきました。
僕たちの学校では、家族参観日に「同和問題」をテーマとした道徳の授業が行われました。特に、3年生は「岐路に立つ」という資料を使って、就職差別について話し合いをしました。
差別に立ち向かおうと決意した主人公「悟」の思い、子どもの幸せを願う両親の思いに共感させられました。



現在も、結婚問題など「言われなき差別」が残っていると聞いています。しかし、それは絶対に許せないことだと思えます。そのためにも僕たち若い世代が中心となって、差別のない社会を築いていかなければならないと思えました。
明るい社会を目指して……



「ちょうど20歳の時、この家に嫁いできました。当時としては晩婚でした」なかなか嫁にいかないと、親が心配していたそうで「今ならまだ学生ですからね。世の中変わったもんです」と。

33歳の時、漁師だった主人を病気で亡くし、娘二人に主人の母と、女ばかりが残った。「それからは、孤軍奮闘でした。引網漁に出たり、ちりめんじゃこや鯖の塩物をヤミで売ったりもしました。悪いこととはわかっている、生活のためにはこれしかできませんでした」ドラマで『おしん』があったが、当時はそのとおりであったという。「お互い大変だったので、助け合ねばという気持ちがみんなにありました。通には今でも、そんな気持ちが残っていますよ」とも。

ふるさとながと ⑳

こんにちには



小林洋一 さん
(東京都日野市)

長門市のホームページに期待します

略歴

昭和36年宇部市で生まれる。昭和46年～53年まで長門市に在住。駒沢大卒業、カシオ計算機(株)入社。現在カシオ電子工業(株)に出向し、商品企画部にて係長。



ノルウェー(プリスクダル氷河)にて

「ながと」の誌面に登場することになったのは、長門市のホームページにアクセスしたためです。大津高校を卒業した後には、縁遠くなったと勝手に思い込んでいたのですが、また急に長門市が身近なものに思えてきました。
職業柄、インターネットとは無縁ではありません。社内の情報揭示用にページを作る側の立場となることもあります。山口県では、山口大学のホームページがかなりしっかり作ってあって、よくアクセスしています。
そこから長門市のホームページに行き着くことができたのです。こういう情報ルートを使い、つながりを作る類の人種がいるのだということですね。
長門市のページは、その構成からして、自治体のものとして